

# 看護師の「仕事に向き合い続ける力とその心理的基盤」の調査

## 研究の目的・意義

本研究は、医療機関で働く看護師の皆さまが、日々の仕事の中でどのような思いを抱きながら働いているのか、そして、どのような心理的な要因が「これからも看護の仕事に向き合い続けようとする気持ち」を支えているのかを明らかにすることを目的としています。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。患者の高齢化や医療の高度化に伴い、看護師の役割はますます重要になっています。一方で、日々の業務の忙しさや責任の重さのなかで、心身の負担を感じたり、将来の働き方について考えたりする場面も少なくないのではないかと考えられます。

これまでの研究では、賃金や労働時間、業務量といった「働く条件」に注目するものが多くありました。しかし実際には、同じような環境で働いていても、仕事に前向きに取り組み続けられる人もいれば、気持ちが揺らいでしまう人もいます。その違いの背景には、物事に粘り強く取り組む力や気持ちを切り替える力、日常生活の中で感じる充実感、仕事への満足感、職業に対する思い入れ、仕事にいきいきと関わる感覚など、さまざまな心理的な要因が関係していると考えられます。

本研究では、職場や個人を評価することを目的とはしていません。そうではなく、看護師の皆さま一人ひとりが、どのような気持ちや考えを抱きながら日々の仕事に向き合っているのかを丁寧に把握し、「仕事に向き合い続ける力」がどのような心理的な土台の上に成り立っているのかを整理することを目指しています。

本研究の意義は、看護師の皆さまが日々の仕事の中で感じている思いや実感を、多くの回答を通して全体の傾向として「見える形」にすることにあります。現場で感じていることは、これまで個人の経験として語られることが多く、十分に共有・整理される機会は限られてきました。本研究では、多くの看護師の声を集めることで、医療現場で働く看護師の実情を、より丁寧に捉えることを目指します。

こうして得られた知見は、看護師が前向きな気持ちを保ちながら仕事に向き合い続けるためには、どのような心理的な支えが重要なのかを考えるための基礎資料となります。それは、今後の職場環境づくりや支援のあり方を検討する際に、現場で働く看護師の実感を反映させるための大切な手がかりになると考えられます。

本研究は、看護師の皆さま一人ひとりの経験や感じ方を尊重し、その声を社会に伝えていくことを目指すものです。皆さまの率直な思いを知ることが、看護師が長く安心して仕事に向き合い続けられる環境を考えるための一助となることを、本研究の大きな意義としています。

研究責任者 古谷 淳

学校法人越原学園 名古屋葵大学 児童教育学科 講師